

# Ticket Guide

チケットぴあにて、全期間分のチケット発売中!

●販売期限:各回上映開始時間まで [Pコード:553-245]

【全席指定席】	一般 (65歳以上を含む)	高大生	小中生/障がい者/ キャンパスメンバーズ
◆PFFアワード2023	¥1,000	¥700	¥500
◆『女囚701号 さそり』を語る			
◆イカす世! 70~80年代	¥1,500		
◆アルノー・デュプレション監督特集			
◆アック&アック			
◆特別企画			
◆第29回PFFスカラシップ作品			

※国立映画アーカイブ公式チケットサイトの電子チケット販売はありません。(金額は税込)  
 ※学生、国立映画アーカイブのキャンパスメンバーズ、障害者手帳をお持ちの方は、ホール入場時に証明できるものをご提示ください。ご提示のない方は入場できません。  
 (障がいの付添者は原則1名まで障がい者と同料金)

## 【会場窓口販売について】

国立映画アーカイブ会場窓口でも、上映日当日にチケットを販売いたします。  
 販売枚数には限りがありますので、ご了承ください。【座席選択はできません】

- 販売時間:各回上映開始の60分前~5分前まで(12時以前に上映開始の回のみ11時から販売)
- 販売場所:1階受付にて販売 ●販売数:10枚以上(チケットぴあ完売時も販売)



購入はこちら

## 【チケットぴあ 購入方法】

- ①インターネット購入【座席選択できる】
  - ②セブン-イレブン【座席選択できない】
- ※発券手数料、システム手数料は0円です。  
 ※チケットの払戻、交換、再発行はできません。  
 ※チケットは会場では発券できません。  
 ※必ずコンビニ(セブン-イレブンorファミリーマート)で発券して会場までお越しください。



**国立映画アーカイブ**  
 National Film Archive of Japan  
 東京都中央区京橋3-7-6

会場アクセス ▶銀座線「京橋駅」1番出口より昭和通り方向へ徒歩1分▶浅草線「宝町駅」A4出口より中央通り方向へ徒歩1分▶有楽町線「銀座一丁目駅」7番出口より徒歩5分▶JR「東京駅」八重洲南口より徒歩10分

国内最大級のインディーズ映画配信サイト



PFFアワード2023

10,000本以上の映画が見放題!

DOKUSO映画館とU-NEXTで、9.9(金)から10.31(木)までオンライン配信!



「U-NEXTポイント」で視聴可!

【主催】



一般社団法人PFF



国立映画アーカイブ  
 National Film Archive of Japan



公益財団法人  
 川喜多記念映画文化財団



公益財団法人ユニジャパン

【オフィシャルパートナー】



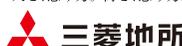
Hakuhodo DY  
 media partners

【特別支援】



一般社団法人  
 日本映画製作者連盟

【オフィシャルTOPスポンサー】



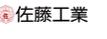
【オフィシャルサポーター】



【特別協賛】



【協賛】



【賛助】

アテネ・フランセ文化事業(株) / (株)伊藤園 / (株)運動会屋 / エイベックス・ピクチャーズ(株) / KANDO(株) / ギャガ(株) / キングレコード(株) / クエストルーム(株) / (有)スタンス・カンパニー / チケットぴあ九州(株) / チケットぴあ名古屋(株) / (株)夏への扉 / (株)PIVOT / (有)フォルム / (有)プレス / (有)ヴォルテージ / (株)マジックアワー / (株)みずほ銀行 / (株)MOON LIGHT / (株)ロケット

【後援】

特定非営利活動法人 映像産業振興機構(VIPO) / 協同組合 日本映画監督協会

第45回

# ぴあフィルムフェスティバル 2023



2023.9.9(土) → 9.23(土)

※月曜休館

国立映画アーカイブ (京橋)  
 National Film Archive of Japan

# PFF Award 2023

【ロケーション部門】PFFアワード2023

詳細はこちらを  
チェック



557本の応募作品のなかから入選した22作品をスクリーン上映。  
上映後は、監督を迎えてのトークを実施します。  
未来輝く22人に、是非会いにきてください。  
来場の皆様の投票で決まる「観客賞」は、9月22日の表彰式で発表されます。  
表彰式では、5名の最終審査員の選ぶグランプリ他、8賞が発表され、  
翌23日には、グランプリ、準グランプリの上映を行います。

〈オンライン配信も! 9.9㊥~10.31㊤〉  
会場に来れない方もぜひ



**映画祭最終日 9.23㊥㊤、受賞作上映!**  
※受賞結果は9.22㊥に公式サイトで発表します。

※年齢、職業(学校名)は応募時のものです。

9.12㊤ 13:00~小ホール / 9.17㊥ 18:00~

**『完璧な若い女性』**65分 監督: 渡邊龍平 (22歳/武蔵野美術大学 造形構想学部映像学科)



**令和の“ラブ・歌謡映画”が誕生!**

東京から静岡に里帰りする黒部と江莉夏は、二人の幼馴染み・汐音から届いたカセットテープ「perfect young lady」を再生する。出会いと別れのバカンスの記録。歌謡映像とコミカルな会話劇がクセになる!

**『ホモ・アミークス』**42分 監督: 馬淵ありさ (27歳/自営業)



**さまざまな「共生」のカタチ**

人間の姿をした実験用生物ホモ・アミークスは「ヤメロ」としか鳴かない。アミークスの飼育員になった田代はある1体に愛着を持ってしまう…。ユニークな設定、巧みなキャラ造形で、観客を物語に誘い込む!

9.9㊥ 14:30~ / 9.13㊤ 11:30~小ホール

**『リテイク』**110分 監督: 中野晃太 (35歳/NPO職員)



**劇中映画に翻弄される110分!**

景はほのかに想いを寄せる遊に自主映画のカメラマンを頼まれる。仲間を集めて撮影が進んでいく中、突然、遊が辞めたいと言いだし…。巧みな劇中映画の使い方! カットの掛け声がかかるとび映画は驚きに溢れていく。

**『ちょっと吐くね』**20分 監督: 大野世愛 (22歳/会社員)



**トイレが舞台の異色の会話劇**

拒食症で嘔吐を繰り返す柚咲は、大学のトイレで嘔吐する静葉の存在に気がつく。ふたりはトイレの壁をへだて関係を築いてきたが、静葉がある約束を破ってしまい…。文学作品を読んだ後のような余韻を残すラストは必見。

9.10㊤ 14:30~ / 9.14㊤ 13:00~小ホール

**『鳥籠』**66分 監督: 立花 遼 (21歳/京都芸術大学 芸術学部)



**彼らが鳥籠にとどまる理由**

暇さえあれば公園に集まりつるんでいた高校生4人組。ある夜呼び出され、悪い先輩の誘いに付き合ったことで、4人の関係性に変化が生じていく。様々な場所を鳥籠に見立て高校生たちの閉塞感を表現した意欲作。

**『サッドカラー』**24分 監督: 高橋栄一 (33歳/フリーランス)



**感情を測れる世界のディストピア**

ある日ミヤは夫に勧められた病院で「悲しみを失くしている」と診断されてしまう。どうにかして悲しみを思い出そうとするミヤだったが…。突き放すような無機質で美しい画面と、皮肉でウィットの効いたセリフに目が離せない!

9.12㊤ 16:00~小ホール / 9.16㊥ 11:30~

**『USE BY YOUTH』**51分 監督: 高木万瑠 (20歳/武蔵野美術大学 造形構想学部映像学科)



**映画の初期衝動が爆発する!**

ジャンケンと拳が全てを決める町に転校してきた最強の男、真田。江美利という少女との出会いを機にその拳を封印するのだが、再び戦いに巻き込まれていく…。主人公に台詞は一切なし! 大胆すぎる設定の娯楽作。

**『ただいまはまだ』**28分 監督: 劉 劼 (28歳/会社員)



**一軒家、4人組の人生が交差する**

中国人留学生の友人・李と共に、彼の音信不通の友人・高を探しに出かけた太郎。無事に高を発見すると、太郎は彼らを妹と住む実家に招待する。一軒家という限定空間から、確かに日常を生きる4人が浮かび上がる演出が光る。

9.14㊤ 16:00~小ホール / 9.17㊥ 11:30~

**『移動する記憶装置展』**71分 監督: たかはし そうた (31歳/東京藝術大学 大学院映像研究科映画専攻)



**町と記憶、記憶と身体**

ギャラリーを運営する麻子は映像作家の谷繁に展示を依頼し、部屋を貸し出す。元々麻子とルームシェアするスミレは不信感を募らせるが、谷繁の展示の手伝いをする羽目に。シリアスなテーマとオフビートな会話劇の心地よい融合!

**『また来週』**36分 監督: ハインズ 麻里子 (21歳/早稲田大学 文化構想学部)



**アクションと共に生きる**

朝ドラを偏愛しすぎるあまり、まるで自分の経験のようにヒロインに同化してしまう明咲子。ヒロインと同じように女優を志すが、次第に理想の世界と乖離していく。劇中劇の朝ドラを現実と呼应するシームレスな世界として描いた構成力に注目。

9.9㊥ 11:30~ / 9.15㊤ 14:30~小ホール

**『ふれる』**60分 監督: 高田恭輔 (21歳/日本大学 芸術学部)



**「ふれられぬも口」にふれるには**

数年前に母を亡くした小学生の美咲。学校などで問題を起こし周囲を困らせていたが、陶芸工房で遊ぶうちに喜びを感じるようになっていく。子供と、子供に関わる人々の魅力を引き出す繊細な演出に注目。

**『Flip-Up Tonic』**26分 監督: 和久井 亮 (22歳/東京大学 教養学部)



**スリリングな事務会話サスペンス!**

人型アンドロイド「リーチャー」を巡る実験者募集に応募した大学生の多良野。実験中、多良野はリーチャーに逃げられ落ち込むが、実験にはある秘密が隠されていた。事務的な会話から謎が広がっていくスリリングな展開に注目。

**『ParkingArea』**9分 監督: 増山 透 (29歳/武蔵野美術大学 造形構想学部映像学科 助教)



**無機質と親密性の幻想世界**

パーキングエリアを訪れた女性、そこは世界がたったひとりだけのよう現実感がない。無機質で幻想的な建築物の中で、彼女が行き着く先は…。一瞬たりとも目の離せない、圧倒的な映像美。

9.9㊥ 18:00~ / 9.13㊤ 15:00~小ホール

**『逃避』**57分 監督: 山口真凜 (22歳/フリーランス)



**男と女、日常と逃避の物語**

帰宅した恋人の和真の様子がおかしいことに気づいた彩乃。彼は、車を乗り捨て洗濯を始め、何が起きたかは全く話さない。翌朝家に尋ねてきたのは…。緊迫の状況で掃除や布団を干す日常的なリアリティが、現実の焦燥感を増幅させる。

**『うらぼんえ』**28分 監督: 寺西 涼 (27歳/フリーター)



**「あちら」と「こちら」が裏切る**

息子の啓太を海の事故で亡くした真司。講師をする絵画教室の生徒から、故人を架空の相手と死後結婚させる供養の言い伝えを聞き、実行にうつすと不思議な変化が…。独特なおどろおどろしい演出と、巧みな構成力が素晴らしい。

**『こころざしと東京の街』**10分 監督: 鈴木凜太郎 (21歳/東京工芸大学 芸術学部)



**10分で描かれた「道」と「人生」**

進路に悩む、高校生の佐藤と金本。進路選択の提出が明日に迫る中、友人二人にカラオケを誘われ佐藤はそれに乗ってしまう。坂道やT字路の道の形状を「進路」や「人生」に重ね合わせる、短いながら誠実に溢れた一篇。

9.10㊥ 11:30~ / 9.13㊤ 18:00~小ホール

**『リバーシブル／リバーシブル』**77分 監督: 石田忍道 (34歳/映像作家、障害福祉従事者)



**様々な現実と心向き合い方**

持病を持つ田中は息子の開と暮らしている。田中は風俗店の送迎の仕事で出会ったミサキに妖精が見えると告げられ、土手に探しに行くようになるのだが…。「見える」ことによる不確かな現実と、確かに存在する生の両面を描き出す。

**『肉にまつわる日常の話』**4分 監督: 石川真衣 (22歳/名古屋学芸大学 メディア造形学部)



**ひとり人間の食履歴と人生**

ある映画を見たことをきっかけに肉を避けた生活を送っていた女性のエッセイムービー。実写映像やコマ撮り、手書きアニメなど様々な手法で食履歴を語る! ひとりの人間の人生とおかしさが積み上げてくる作品。

**『Sewing Love』**8分 監督: 許 願 (27歳/多摩美術大学 グラフィックデザイン学科)



**感情の形状、愛の質感**

男の胸には穴が空いている。あるときひとりの女性に出会い、穴を埋めるように愛を育んでいく。しかし彼女を失う恐怖から、自身の胸に彼女を縫い付けようとする…。様々な質感や素材に変形していく感情の表現は圧巻!

9.10㊥ 18:00~ / 9.15㊤ 11:30~小ホール

**『じゃ、また。』**52分 監督: 石川泰地 (27歳/フリーター)



**こころフルーム、何かが変だ**

大学を除籍となり引きこもっているナリヤスの家に、かつての映画仲間シュウタが突然やって来る。彼はなぜ家に戻ってきたのか? 異空間につながる部屋、巻き戻される時間、男の心情と呼応した世界の変化に翻弄される52分間。

**『ハーフタイム』**30分 監督: 張 曜元 (33歳/東京藝術大学 大学院映像研究科 博士課程)



**感情がフレームを飛び越える**

中国からの技能実習生・慶陽は、給与未払いの訴えが組合に取り合われず疲弊していた。さらにルームメイトの悪事に加担してしまい、組合に弱みを握られてしまう。映画を観る「わたしたち」に余韻を残し続ける衝撃のラスト。

**『不在の出来事』**13分 監督: 川口淳也 (29歳/フリーランス)



**ワフルーム、宇宙。**

登場する男に名前はない。そしてほとんど映ることもない。カメラは男がいなくなったマンションを写し続ける。「不在の空間」は「観察者」がいるがぎり運動し、息づいている。空間の認識が一変する、感性爆発の13分間。

**「PFFin京都」開催決定!**

10月14日[土]~22日[日]、「第45回ぴあフィルムフェスティバル in 京都」を京都文化博物館にて開催

# Invited Works

【招待作品部門】  
あの時代を新しい視点でたっぷり上映

# イカすぜ! 70~80年代

激動の60年代を過ぎ、生活が大きく変わり始めた70~80年代。  
自ら生み出す映画=自主映画=の熱風渦巻くこの時代に、PFFは生まれました。  
あの頃に、どんな人たちが、どんな映画が、風を起していたのか?  
2028年の第50回PFFに向かい、毎年10年区切りで自主映画のみならず  
当時の傑作の数々を上映し、時代を、歴史を体感する企画をスタートします。  
自主映画は、もう既に、映画の歴史の中に力強く脈打っています。

詳細はこちらを  
チェック



8mm は8mm作品を  
デジタル化して上映  
16mm 35mm は  
フィルムで上映

## 大森一樹 (1952-2022) 監督再発見

映画が好きすぎて“映画になろうとしたひと”の、  
映画への愛と憧れが溢れる3プログラム

『革命狂時代』  
1969年/13分



自主映画時代① 8mm6作品一挙上映

9.10 @ 13:00 ~ 小ホール  
緒方明監督、モルモット吉田氏

『ヒロシマから遠く離れて』『空飛ぶ円盤を見た男』『明日に向けて走れぬ!』  
1972年/2分 (3部作)1972年~/49分 1972年/42分



自主映画時代② 8mm1作品+16mm2作品一挙上映

9.10 @ 16:30 ~ 小ホール  
緒方明監督、モルモット吉田氏

『死ぬにはまにあわない!』『暗くなるまで待てない!』『夏子と長いお別れ』  
1974年/47分 1975年/70分 1978年/25分



必見! 秘蔵長編映画豪華 2本立て

『女優時代』1988年/93分  
9.20 @ 13:00 ~  
緒方明監督とゲストが語る



『悲しき天使』  
2006年/113分



©KINDAI EIGA KYOKAI Co.,LTD.

©ツインズジャパン

## 斎藤久志 (1959-2022) 監督再発見

長廻しのロングショット、ひとを捉える独自の空間と時間、惜まれるその逝去...



傑作長編『草の響き』  
2021年/116分

9.14 @ 11:30 ~

主演:東出昌大、奈緒

佐藤泰志原作を映画化した遺作。

©2021 HAKODATE CINEMA IRIS



珠玉の8ミリ作品『うしろあたま』  
1985年/124分 原作:高野文子

9.14 @ 14:30 ~

上映後、盟友・風間志織監督と  
鈴木卓爾監督が語る



特別上映『O×O (ゼロカケルコトノゼロ)』  
1984年/22分 監督:風間志織

[スペシャルトーク] 斎藤監督の現場で出会った3人が語り、  
“秘蔵映画”をみせる



9.14 @ 18:30 ~

鈴木卓爾監督  
矢口史靖監督  
俳優・田中要次氏

斎藤監督の映画に出演中の鈴木卓爾氏を訪ねたことで、矢口史靖監督、田中要次さん、  
3人の長い友情が始まった。秘蔵作品を上映し、数々のエピソードを披露しながら、斎藤  
久志監督の映画術を伝えていく。

『サンデイドライブ』1998年/86分 塚本晋也監督プロデュース



9.21 @ 18:30 ~

上映後、プロデュース&主演の  
塚本晋也監督が共演の唯野未  
歩子氏を迎え斎藤監督を語る

ワンピース「Whatever」,「DON'T  
LOOK BACK IN ANGER」も上映。

★白黒ステルを使用していますが、カラー作品です。

## 4Kデジタル完全修復版・ワールドプレミア上映! 鈴木清順 美学が炸裂

生誕100年を寿ぎ、4Kデジタルで甦るSeijun World!



『陽炎座』1981年/139分

9.21 @ 13:00 ~

監督:鈴木清順

数多の傑作を発表してきた鈴木清順  
がその美学を遺憾なく発揮した「ツイ  
ゴイネルワイゼン」「陽炎座」「夢二」から、  
『陽炎座』を特別上映する。

## 日比野幸子 (1946-2022) プロデューサー 再発見

PFF応募作品の保存、長編映画の製作、アジア映画  
への注目など、PFFの礎をつくったひとを改めて紹介



『香子』1977年/80分

9.13 @ 18:30 ~

渡部真カメランとゲストが  
日比野さんの活躍を語る

監督:伴 睦人 撮影:渡部 真  
主演:山口小夜子  
伝説の「香子」デジタルリマスター・  
ワールドプレミア上映!

★白黒ステルを使用していますが、カラー作品です。

## アジア映画の新鋭発見!

アジア映画や東欧映画に殆ど注目が集まらない時代に、いち早く各国の新鋭を紹介し続けた  
日比野氏。初来日がPFFだった監督も多かった。その中から2作品を紹介する。



『旅人は休まない』

1987年/105分/韓国 提供:福岡市総合図書館

9.15 @ 13:00 ~

監督:イ・チャンホ

★白黒ステルを使用していますが、カラー作品です。



『風櫃の少年』

1983年/101分/台湾

9.15 @ 15:30 ~

監督:ホウ・シャオシェン

## 山中瑤子監督『あみこ』へ回道

「映画監督とは作家なのだ!」と知ったとき、『あみこ』の生まれる土台ができた。  
みずから目耳を拓かれた映画を紹介する



『ポゼッション』

1980年/124分

9.9 @ 12:00 ~ 小ホール

監督:アンジェイ・ズラウスキー



『あみこ』2017年/66分

9.9 @ 15:00 ~ 小ホール

山中瑤子監督に若手  
ゲストが聞く映画のこと

『おやすみ、また向こう岸で』  
2019年/24分



『ホーリー・マウンテン』

1973年/114分

9.9 @ 18:30 ~ 小ホール

監督:アレハンドロ・ホドロフスキー

## 塩田明彦監督がみつめる 相米慎二の少女少女

塩田監督が3作品上映を通して解析する、  
相米慎二が後世代に残した少女少女映画の刻印

長編映画3本立て  
『シオンベン・ライダー』1983年/118分 監督:相米慎二  
『どこまでもいこう』1999年/75分 監督:塩田明彦  
『お引越し』1993年/124分 監督:相米慎二



★「お引越し」(左上)は白黒ステルを使用していますが、カラー作品です。

9.12 @ 13:30 ~

ここでしか聞けない塩田明彦  
監督の特別講義が実現!



【どこまでもいこう】

## アルノー・デプレシャン監督 『女囚701号 さそり』を語る

『女囚701号 さそり』1972年/87分



9.17 @ 14:30 ~

アルノー・デプレシャン監督

監督:伊藤俊也 主演:梶芽衣子

アルノー・デプレシャン監督が特別  
プログラムとして、熱愛する日本映  
画を語り尽くす。

★白黒ステルを使用していますが、カラー作品です。

## 驚異のデビュー作

「どうしたら映画監督になれるのか?」今も続くその問いに、あの時代はこう答える

『ピリィ★ザ★キッドの新しい夜明け』1986年/109分



9.13 @ 13:00 ~

監督:山川直人  
PARCOMムービー第一弾。当時、20  
代の8ミリ作家が商業デビューする  
センセーション! 超豪華キャスト&原  
作者・高橋源一郎氏も脚本参加。

★山川直人監督に若手ゲストが聞くあの時代

8ミリ長編『ビハインド』1979年/60分



『WANDA ワンダ』1970年/103分

9.16 @ 18:00 ~ 小ホール

監督:主演:バーバラ・ローデン

鶴岡慧子監督セレクト:アメリカからやってきた衝  
撃作! 初監督・初主演の早逝したバーバラ・ロー  
デンは、今もこの映画に忘れ難く思っている。

# アルノー・デプレシャン監督特集

詳細はこちらをチェック



緻密な人間心理の観察と、独自の言葉と行動を紡ぐ

比類なき演出で、着実にキャリアを積み名匠を27年ぶりにPFFに迎え、初期作品と転換期作品についてじっくり伺います。

協力:東京日仏学院、ムヴィオラ

『二十歳の死』1991年/50分 **G** 上映前トーク:デプレシャン監督

🕒 9.16 19:00~

出演:マリアヌ・ドニクール、ティボ・ド・モンタランペール  
ジャン・ヴィゴ賞受賞の初中編作。昏睡状態のナトリックを囲むひとびとを冷徹に描き出す。

『魂を救え!』1992年/139分

🕒 9.17 12:00~ 小ホール

出演:エマニュエル・サランジェ  
撮影:カロリヌ・ジャンプティエ  
ドイツからパリに列車で向かうマティアスの鞆に誰か頭をいれていった!迷路が始まる。

『そして僕は恋をする』1996年/178分

🕒 9.22 12:00~

出演:マチュー・アマルリック、エマニュエル・ドゥヴォス、ジャンヌ・バリエール  
大学での将来に焦れるポールは、恋愛でも3人の女性に恋う。共感と羞恥の3時間。

『イスマエルの亡霊たち』2017年/134分

**G** デプレシャン監督に若手ゲストが聞く創作のコツ

🕒 9.16 14:30~

出演:マチュー・アマルリック、マリオン・コティヤール、シャルロット・ゲンズブール  
映画監督が映画づくりについて描く映画は、どうしてこんなにおかしいのだろうか。

# ブラック&ブラック

レギュラーとなったピーター・バラカンさんセレクトの音楽映画プログラム。ブラック・ミュージックとその歴史に注目!

『ワッツタックス』1973年/102分 監督:メル・スチュアート

**G** 映画を深堀りするアフタートーク  
ピーター・バラカン氏(9/19)  
土屋和代氏(9/20)

🕒 9.19 19:00~  
9.20 18:30~

1972年8月20日伝説の野外コンサートが開催された。スタックスレコード所属ミュージシャンが一同に会する夢の一夜を今、東京に

©1973 Columbia Pictures Industries, Inc. All Rights Reserved.

# 【特別企画①】 生誕120年・小津安二郎の 愛したふたり



小津がこころから愛し、尊んだ清水宏と山中貞雄作品を上映し、小津スピリッツを伝承する。

3作品一挙上映  
🕒 9.19 14:00~



『有りがたうさん』1936年/78分 with English subtitles



『明日は日本晴れ』1948年/65分

監督:清水 宏  
乗合バスを通して描く戦前と戦後の日本。その鮮やかな手帳!



『人情紙風船』1937年/86分 with English subtitles

監督:山中貞雄  
28歳で戦場で果てた天才を悼む。日本映画の至宝作をスクリーンで!

# 【特別企画②】 20代監督の衝撃作!

奇しくも両作、こんにちのジェンダー・サブジェクトに呼応する。

『ジャンヌ・ディエルマン ブリュッセル1080、コルメス河畔通り23番地』1975年/200分 監督:ジャンタル・アケルマン

🕒 9.17 15:30~ 小ホール

25歳でこれを…世紀の傑作。イギリスBF「世界のベスト映画投票」で、いま、堂々一位に躍り出た早すぎた傑作!



『わたしはロランス』2012年/168分

監督:グザヴィエ・ドラン(監督引退を宣言)

🕒 9.16 14:00~ 小ホール

23歳でこれを…驚異の映画。第65回カンヌ映画祭ある視点 女優賞&クイア・パルム受賞の傑作!

# 第29回PFFスカラシップ お披露目

PFFが企画から公開までトータルプロデュースする長編映画プロジェクト最新作!

『恋脳 Experiment』2023年/110分予定 **G** アフタートーク(予定):岡田詩歌監督、袴キララ氏、平井亜門氏、中島歩氏

🕒 9.15 18:30~

監督:岡田詩歌  
出演:袴 キララ、平井亜門、中島 歩

「恋をすれば可愛くなる」。ヒロインが中学生のときにかけられたこの呪い、大人になりたいま、解くことができるのか?

©2023 ぴあ、ホリプロ、電通、博報堂DYメディアパートナーズ、一般社団法人PFF

# 第45回ぴあフィルムフェスティバル タイムテーブル

\*開場時間は、上映時間の15分前です。日ごとに上映開始時間が違いますので、ご注意ください。

\*国立映画アーカイブの開館時間は、11時です。**G**…ゲスト来場予定。  
\*プログラムおよび来場ゲストが予告なく変更になる場合もございます。ご了承ください。

9.9 (土)	小ホール	11:30~ <b>G</b> PFFアワード2023 『ふれる』『Flip-Up Tonic』『Parking Area』	14:30~ <b>G</b> PFFアワード2023 『リテイク』『ちょっと吐くね』	18:00~ <b>G</b> PFFアワード2023 『逃避』『うらぼんえ』『こころざしと東京の街』
10 (日)	小ホール	11:30~ <b>G</b> PFFアワード2023 『リバーシブル/リバーシブル』『肉にまつわる日常の話』『Sewing Love』	14:30~ <b>G</b> PFFアワード2023 『鳥籠』『サッドカラー』	18:00~ <b>G</b> PFFアワード2023 『じゃ、また。』『ハーフタイム』『不在の出来事』
11月		休館日		
12 (火)	小ホール	13:30~ <b>G</b> 『シヨンベン・ライダー』『どこまでもいこう』『お引越し』 ここでしか聞けない塩田明彦監督の特別講義が実現!	16:00~ <b>G</b> PFFアワード2023 『USE BY YOUTH』『ホモ・アミークス』	
13 (水)	小ホール	13:00~ <b>G</b> 『ビリィ★ザ★キッドの新しい夜明け』『ビハインド』 山川直人監督に若手ゲストが聞くあの時代	15:00~ <b>G</b> PFFアワード2023 『逃避』『うらぼんえ』『こころざしと東京の街』	18:00~ <b>G</b> PFFアワード2023 『リバーシブル/リバーシブル』『肉にまつわる日常の話』『Sewing Love』
14 (木)	小ホール	11:30~ 『草の響き』	14:30~ <b>G</b> 『うしろあたま』『O×O(ゼロカケル)』『ストロボ』 風間志織監督、鈴木卓爾監督	18:30~ <b>G</b> 斎藤監督の現場で出会った3人が語り、“秘蔵映画”をみせる 鈴木卓爾監督、矢口史靖監督、田中要次氏
15 (金)	小ホール	13:00~ <b>G</b> 『旅人は休まない』 ナグネ	16:00~ <b>G</b> PFFアワード2023 『移動する記憶装置展』『また来週』	18:30~ <b>G</b> 第29回PFFスカラシップ作品 れんのう『恋脳Experiment』 岡田詩歌監督、袴キララ氏、平井亜門氏、中島歩氏
16 (土)	小ホール	11:30~ <b>G</b> PFFアワード2023 『じゃ、また。』『ハーフタイム』『不在の出来事』	14:30~ <b>G</b> PFFアワード2023 『ふれる』『Flip-Up Tonic』『Parking Area』	19:00~ <b>G</b> 『二十歳の死』 アルノー・デプレシャン監督
17 (日)	小ホール	11:30~ <b>G</b> PFFアワード2023 『移動する記憶装置展』『また来週』	14:30~ <b>G</b> 『イスマエルの亡霊たち』 アルノー・デプレシャン監督	18:00~ 『WANDA ワンダ』
18月報		休館日		
19 (火)	小ホール	14:00~ 『有りがたうさん』『明日は日本晴れ』『人情紙風船』		19:00~ <b>G</b> 『ワッツタックス』 ピーター・バラカン氏(ブロードキャスター)
20 (水)	小ホール	13:00~ <b>G</b> 『女優時代』『悲しき天使』 緒方明監督とゲストが語る		18:30~ <b>G</b> 『ワッツタックス』 土屋和代氏(東京大学大学院総合文化研究科地域文化研究専攻教授)
21 (木)	小ホール	13:00~ 『陽炎座』	18:30~ <b>G</b> 『サンデイドライブ』 ワンピース『Whatever』『DON'T LOOK BACK IN ANGER』 塚本晋也監督、唯野未歩子氏	
22 (金)	小ホール	『そして僕は恋をする』		
23 (土報)	小ホール	11:30~ PFFアワード2023 受賞作上映 準グランプリ作品含む	14:30~ PFFアワード2023 受賞作上映 グランプリ作品含む	

詳細はこちらをチェック

